

二八二〇番

かくだにも 妹を待ちなむ さ夜ふけて 出で来  
し月の 傾くまでに

二八二一番

木の間に 移ろふ月の 影を惜しみ 立ちもと  
ほるに さ夜ふけにけり

二八二三番

たくひれの 白浜波の 寄りもあへず 荒ぶる妹  
に 恋ひつつそ居る

二八二三番

かへらまに 君こそ我に たくひれの 白浜波の  
寄る時もなき